はじめに

今年は、留学センター横の若木が 11 月のはじめから緑から黄色、橙色、赤、深紅へと見事なグラデーションの変化を見せてくれました。そして葉が散った先週末、南砺利賀みらい留学センターではこれまでの活動の成果を発表する「第二回収穫祭」が行われました。

留学生たちはこの「はつうま通信」でご紹介してきたような全体で行う活動以外に、5 月の半ばから、それぞれの興味に沿った「個人体験活動」というものを行ってきました。釣りや養蜂など、身の回りの自然を研究した人。山で採れるものを使って小屋を作った人、弓や楽器を作った人。炭焼きやてごづくりなど、昔からの技について学んだ人。利賀の好きな景色や瞬間を、版画や絶景スポットとして自分なりの観点でまとめた人。中 3 の二人はさすが。それぞれに畑で作物を育て、収穫物からケーキやそばを打って、収穫祭でふるまってくれました。何をテーマにするか紆余曲折しながらも、お互いサポートし合いながら行った各々の体験を、収穫祭では力強い言葉で発表してくれました。このように、実り多い体験をサポートしてくださった地域の皆さまに心より感謝申し上げます。

子どもたちの活動の様子は、山村留学センターにも掲示してあります。事務所にスタッフもおりますので、ぜひ、ふらっと立ち寄って、どんなことをしているのか、のぞいてみてください。お待ちしております。

須河　紗也子

【 活動カレンダー 】

１０月

２３日　保護者来園行事
２４日　個人体験活動
２５日　ホームステイ入り

１１月

２日　センター入り
３日　個人体験活動
５日　個人体験活動
６日　柿採り
８日　干し柿づくり（小学生）
１０日　干し柿づくり（中学生）
１２日　収穫祭準備（～１３日）
１９日　収穫祭（～２０日）

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

10／23　保護者来園行事

金剛祭翌日は、親子で活動を行いました。①「焼き芋大会」②「蕎麦打ち体験」のグループに分かれて活動しました。

①では最初にスタッフの畑でさつまいもほりをしました。中には大きなカボチャほどの大きさになった芋もあり、「さつまいモンスターだ！！」とみつけた留学生から歓声が上がっていました。その後はセンターに移動して、焼き芋大会を開催。みんなで焚き火を囲んで過ごす賑やかな時間となりました。

②では「うまいもん館」にて蕎麦打ちを体験しました。講師の方に教えていただきながら蕎麦を打ちましたが、伸ばす・切るの作業は「教えてもらわないと厚さが合っているかわからないな…」「細くきれない！」など、苦戦している様子でした。

出来上がった蕎麦と焼き芋は持ち寄って、全員で賑やかな昼食となりました。

11／6　柿採り

保存食づくりの活動の一つとして干し柿を作るため、城端の柿畑に伺いました。１０センチほどある大きな柿の収穫を体験し、たくさんの柿をいただきました。収穫の後は、干し柿を作る過程を見学させていただきました。干し柿で出来た柿のカーテンを見た子どもたちは「きれいだね」と、思わず見とれている様子でした。働くお母さん方に「この機械はどうやって使うのですか？やってみたいです！」と積極的に話を聞き、皮をむく機械の体験や、センターでの干し柿づくりにも生かせるコツも教えていただきました。

11／8・10　干し柿づくり

１１月６日にいただいた柿を、小学生と中学生で手分けをして干し柿にする作業を行いました。皮をむいた柿は教わった紐のつけ方で結び、熱湯にくぐらせて、外に干します。「熟れた柿は、渋くないよ、食べられるよ！」とつまみ食いをしながら作業を進めます。「手が黒くなっちゃったよ」「ぬるぬるして皮をむくのが難しい」と、干し柿づくりの大変さを学ぶとともに、おいしくいただく日が待ち遠しくなりました。

11／6・7　体験留学の様子

体験留学に３人の子どもたちが参加してくれました。６日の午後は留学生と一緒に、城端へ柿採りに出かけました。行きのバスの中で、すぐに留学生と仲良くなり、じゃれあう子どもたち。活動中も「一緒に柿運ぼう！」「次、やってみる？」と留学生が積極的に声をかける様子が見られました。夜には、留学生が太鼓の演目を初めて人前で披露し、お互いに良い刺激となりました。翌朝、利賀の朝の寒さに驚きながらも、「よく寝れたよ！」と元気に朝の集いに集合。学校へと向かっていきました。

11／19・20　収穫祭

山村留学でもっとも大きな行事、収穫祭を開催しました。

収穫祭は、年間を通じて行ってきた農作業での収穫に感謝すると同時に、自身の成長への支えに感謝する大切な行事です。

１日目は「自然への感謝の式」「体験発表」の２部構成です。午前中の感謝の式では、今年度の農作業を振り返り、その収穫に対する感謝をしました。午後の体験発表では、子ども民謡保存会の民謡披露に始まり、個人体験や演目の発表、心の収穫のスピーチを行いました。日々の生活の中で少しずつ準備を進めていったので、発表直前まで「緊張する～！」「全然自信ない…」と不安そうな子もいましたが、「よく頑張ったね。」「太鼓、よかったよ。」など温かい言葉をかけていただきました。

２日目は、保護者会主催の模擬店を開きました。「石狩鍋」「玉せん」「おやき」「チョコバナナ」など、様々な店舗が体育館に並び、親子で店を盛り上げました。昼過ぎには留学生による演目披露も行いました。地元児童生徒をはじめ、悪天候の中、様々な方にご来園いただき、とても賑やかな１日となりました。

今年の収穫祭は去年よりも緊張しなかったです。大きな声が太鼓でも出すことができてうれしかったです。太鼓の発表は、自分の中では、細かい点で間違えたところやよかったと思えるところもあったけれど、全体的には太鼓の音がそろっていたので、みんなとのきずなが深まってきているのではないかと思いました。これからの半年もがんばっていきたいです。（ **遥也** ）

収穫祭で特に楽しかったのは、太鼓と模擬店です。太鼓の個人演目では、翠と音のつぶまで合わせられるようにたくさん練習しました。練習でも、本番でも楽しくやることができたのでよかったです。模擬店では、たませんとフランクフルトを売りました。名古屋が誇るたませんをいろんな人に食べてもらえたのがうれしかったです。（ **梨織** ）

今回の収穫祭は僕にとってコロナ禍になってから初めて、厳しい規制がない中で行うことができた行事でした。特に2日目は模擬店を出し、飲食物を提供することができました。地域の方にもたくさん来てもらうことができ、とても楽しい2日間になりました。（ **樹** ）

〈収穫祭を迎えるまでに…〉

保護者だより

息子が今年度２年目となり日々頑張っている様子をホームページやブログ、送られてくるこの「はつうま通信」で拝見するのを楽しみにしています。かく言う私も入園当初は無事に一年いられるのだろうかと不安な幕開けでした。入園のつどいと利賀中学校入学式を終えてセンターを後にする際、背後に「一年は無理だ…」と呟く息子の視線を感じましたが、振り返らないように去ったことを思い出します。

コロナ禍にあり運動会の保護者観戦も出来ず次に息子に会ったのは夏休みでした。久々に会った息子は大袈裟ではなく外見も中身も別人のようでした。声は低くなりうんと背も伸びていました。そして、「見て！」と言って箸を持ち苦手だったトマトをひと口でペロリ。口うるさく言っていた箸の持ち方も自分で意識して直して来ました。利賀村で母を思い出し持ち方を直してみようと思ったそうです。また、中学校の夏休みのしおりの中に夏休みの目標を書く欄があり
「毎日親に会えるという幸せをかみしめながら生活する」と
記入していた文面を見てほろりともしました。

決して楽なことばかりでは無いとしても、経験のひとつひとつを誇りにたくさんのご恩を無駄にしないで生きていって欲しいと願います。

くま爺のつぶやき・・・

食欲の秋。センターの食が一段と美味しい。献立は決まっているが地元の方や保護者からいただいた食材を臨機応変に使用し、唸るような料理やデザートを食卓に並べる、料理名人であるお母さんの技と味を学ぶため、なるべく厨房に入りお手伝いをするようにしている。子どもたちも配膳前にお手伝いに入り、今夜は何かなと楽しみな様子。休日等は収穫した野菜や木の実などを使いデザートを作る子もいる。私たちの山村留学ではさまざまな体験活動に取り組んでいるが、食を通して人と自然の繋がりを学ぶ食文化体験をとても大切にしている。センターでは米や野菜づくりが終わりこれからは保存食作りの季節。11 月上旬、城端の農園を訪ね特産の干し柿づくりを学ばせていただき、大量の柿を頂戴した。センターでは 300 個以上の干し柿が吊るされ、合わせ柿も食べ頃になってきた。これからは収穫したサツマイモを干し芋に, 赤カブは漬物にしようと考えている。

統括主幹　山本光則